

# 令和元年度 保育所の自己評価

伊勢原愛児園

	自己評価の観点	内容及び課題
保育理念	子どもの最善の利益の考慮	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもの最善の利益を考慮した保育の基本理念、基本方針、保育目標に沿って、子どもを主体とした日々の関わりや信頼関係の構築に努めた。</li> <li>入園時に保育の内容や園生活の内容等について重要事項説明書にて保護者に説明し同意を得ている。</li> <li>子どもの人権については職員間の共通意識を高めた。</li> </ul>
子どもの発達援助	子どもの福祉を増進することにもっともふさわしい生活の場 生活と発達の連続性 養護と教育の一体的展開 環境を通して行う保育	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備した。</li> <li>登園時や保育中の子ども一人ひとりの健康状態の把握に努めた。</li> <li>健康診断や歯科検診の結果について、保護者や職員に伝達し、保育に反映させた。</li> <li>子どもの食生活を充実させるために、食育指導等家庭と連携をとった。</li> <li>子どもの個人差や性差、国籍の違いへの配慮に努めた。</li> <li>園生活と家庭生活の連続性を考慮し、家庭との連携に努めた。</li> <li>異年齢児交流として「なかよしクラブ」を年3回実施した。</li> <li>さつまいも作りや野菜作り、みかん狩りなどを通して、食への関心を高める活動をした。</li> <li>園外保育や散歩などを多く取り入れ、自然環境を通じた保育を行った。</li> </ul>
保護者に対する支援	家庭との緊密な関係 地域における子育て支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>子育てのパートナーとしての役割を常に意識した取り組みとして「保護者の一日保育体験」を行っているが参加者が少ない。</li> <li>連絡ノートやえんだより、クラスだよりなどで子ども達の様子を伝えた。</li> <li>保育参観や個々面談を通し、子育てに関する相談・援助等、保護者との交流を図った。</li> <li>園庭開放やふれあいサロンなど地域の子育て支援も積極的に行った。</li> <li>利用者の意見等には迅速に対応し、情報の提供も積極的に行った。</li> </ul>
保育を支える組織的基盤	健康及び安全の実施体制 保育の計画と保育内容の自己評価 職員の資質向上 運営・管理・社会的責任	<ul style="list-style-type: none"> <li>配慮を必要とする子や個々の子どもの発達段階への配慮等を共有するため、定期的に連絡会を設け話し合いを行った。</li> <li>毎月の避難訓練や隔月の交通安全指導の実施により、災害時の対応方法等を子どもにもわかる形で指導した。</li> <li>安全チェックリストに従い遊具等の点検を毎月行い、事故防止に努めた。また、想定できるヒヤリハットの解消に努めた。</li> <li>不審者の侵入時などに対応できるよう防犯訓練を年3回行った。</li> <li>アレルギー対応には栄養士や保育士が会議を含め連携して行った。</li> <li>睡眠時呼吸等の確認により SIDS を未然に防ぐよう努めた。</li> <li>衛生管理として電解次亜水による消毒を行っている。</li> <li>児童の健康管理においては嘱託医との連携を行っている。</li> <li>組織として職員に対しての教育・研修計画がうまく機能しなかった。</li> <li>人材の採用や確保等、人事管理に課題が残った。</li> <li>組織として保育士の連携を深める必要がある。</li> <li>保育士等の自己評価を通し自己の振り返りを行っている。</li> <li>守秘義務を徹底する事を心がけた。</li> <li>クラウド等を活用し労務管理や情報の共有を行っている。</li> <li>ICT を活用して登降園時間管理や指導計画等の書類作成を行った。</li> <li>働き方改革による労務管理等に取り組んだがまだ課題が残る。</li> </ul>

以上、保育所の自己評価を行いました。  
結果をもとに振り返り、保育内容の改善、向上に組織として取り組んでいきたいと思ひます。

# 令和元年度 保育所の自己評価

比々多保育園

	自己評価の観点	内容及び課題
保育理念	子どもの最善の利益の考慮	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新保育所保育指針に基づき、子どもの最善の利益を考慮した保育の基本理念、基本方針、目標に沿って、子どもを主体とした保育ができるよう努めた。</li> <li>・利用者のプライバシーにはできるだけ配慮した。</li> </ul>
子どもの発達援助	子どもの福祉を増進することにもっともふさわしい生活の場 生活と発達の連続性 養護と教育の一体的展開 環境を通して行う保育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもが心地よく健康で安全に過ごすことのできる環境を整えた。</li> <li>・子ども一人ひとりへの理解を深め、発達過程に応じた保育ができるよう研修会に参加したり、職員同士意見交換ができる勉強会を開催し自己研鑽に努めた。</li> <li>・子ども同士の関わりを大切に子どもが自発的・意欲的に活動できるよう援助した。</li> <li>・保育の中で子どもが困り感を持たないように、気持ちをくみ取り不安をなくせるようにした。</li> </ul>
保護者に対する支援	家庭との緊密な関係 地域における子育て支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の意見等には、職員会議で改善策を検討し丁寧な対応を心がけた。</li> <li>・入園時等にはしおりに基づいて細かに説明するよう心がけた。</li> <li>・第三者評価を受審し保護者の意見を聞くことができた。</li> <li>・保護者の意向を理解・受容し、それぞれの家庭環境に配慮しながら、日頃より保護者との信頼関係を深め、子どもの育ちを家庭と連携して支援できるよう努めた。</li> <li>・個々面談や懇談会等を通して、保護者の子育てに対する不安や悩みに適切に応えられるよう努めた。</li> <li>・一時預かり保育では、様々なニーズに応えられるよう積極的に受け入れを行った。</li> <li>・地域との交流を積極的に行った。</li> </ul>
保育を支える組織的基盤	健康及び安全の実施体制 保育の計画と保育内容の自己評価 職員の資質向上 運営・管理・社会的責任	<ul style="list-style-type: none"> <li>・組織としての力が十分発揮できるよう、各種研修会（キャリアアップ）に参加し知識を深め、園内の会議等で意見交換を行い共通意識の基保育を行った。</li> <li>・個々の職員に対して、組織としての教育、研修等を適時行う必要性を感じた。</li> <li>・人材の確保等、人事管理を積極的に行う必要があると感じた。</li> <li>・実習生の受け入れ等を積極的に行った。</li> <li>・毎月「避難訓練計画表」を基に地震・火災に備えて避難訓練を実施した。また、年一回消防署への通報訓練も行った。</li> <li>・不審者の侵入時等に対応できるよう防犯訓練等を年2回行った。</li> <li>・保護者からのご意見を基に時間帯による施錠を検討し、“西門”については保護者に周知後実施する。その他の出入り口についても他施設利用団体と協議の上検討していきたい。</li> <li>・毎月「交通安全指導計画」を基に子どもにわかりやすく交通ルールについて学ばせた。</li> <li>・毎月「安全管理マニュアル&amp;点検チェック表」を基に事故防止に努めた。</li> <li>・感染症防止のための取り組みを園全体で周知した。</li> <li>・「危機管理マニュアル」について職員が周知をはかり、特に0、1歳児のSIDSの対応（睡眠チェック表）等保護者にも注意を呼びかけた。</li> </ul>

以上、保育所の自己評価を行いました。  
 結果をもとに振り返り、保育内容の改善、向上に組織として取り組んでいきたいと思ひます。